

サポートルームだより

2025年4月9日 No.1
町田市立成瀬小学校
サポートルーム拠点校
校長 吉成 美紀
サポートルーム担当

南第二小学校と南成瀬小学校が統合し、「成瀬小学校」ととなりました。サポートルームに通う児童数はこれまで76人でしたが、高ヶ坂小の児童を合わせて91人になりました。教員の数も、これまでの6人から、8人になりました。お互い早く環境に慣れ、良い学びにつながっていきたいと思います。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

<2025 年度 教職員>



よろしくお願いいたします。

今後の主な予定

4月 9日（水） サポートルーム保護者会（成瀬小会場）
10日（木） サポートルーム保護者会（高ヶ坂小会場）
※在籍校に関わらず、どちらの会場でもご参加いただけます。
14日（月）～指導開始（2年生以上）
21日（月）～指導開始（1年生）

7月14日（月）1学期指導終了

サポートルームで教えていること

サポートルームは、お子さんに良い経験をさせ、これまでの習慣を上書きし、お子さんの行動や考え方をレベルアップさせていくところです。人間は、良い経験をすれば、次もその行動をしようとします。また、うまくいかなかったり、悪い経験になったりすると、その行動は減っていきます。

「失敗したり、嫌な思いをしたりすれば、勉強になるだろう」と私たち大人は考えがちです。確かに「失敗は成功のもと」と言われています。失敗をしたとき、次にまた頑張ろうとすることができればよいのですが、失敗への耐性も、人それぞれです。お子さんによっては少しの失敗でも、次に頑張ろうとする気持ちが損なわれてしまうことがあります。私たち大人も失敗から学ぶことは多いですが、叱られたり、失敗を恐れながらする仕事よりは、褒められたり、感謝されたり、良い結果が増えたりしながらの方がモチベーションは上がります。

サポートルームでは、以下の方法をうまくいくやり方としてお勧めしています。お子さんへの接し方として、まず一つだけでも心がけてみてください。

「うまくいくやり方を示す」

例えば「お箸は、右側に持ち手を向けてね。」「ご飯は、向かって左に置いてね。」のように、先にうまくいくやり方を教えておくとうれしいです。並べ終わった後から「ご飯は左に置いてほしかったんだ…」と伝え、お子さんはやり直しをすることにもなりますし、お子さんの気持ちは、がっかりしやすくなります。

「ルールは先に伝える」

例えば「〇〇したから、〇〇禁止ね。」と言うことはありませんか？事前に相談し、合意がとれていけばよいのですが、そうでなければ、場当たりのルールとなり、お子さんは混乱することがあります。できれば「〇〇したら、〇〇ができるよ。」のように、ポジティブな伝え方ができると、お子さんのモチベーションが上がります。

「具体的な指示をする」

例えば「ちょっと待ってね。」とよく言いがちだと思います。これは、どれくらい待てばいいのか分かりにくい指示です。それよりは「5分間待ってね。」「長い針が3になるまで待ってね。」のように、具体的な指示をするほうがお子さんは見通しをもつことができ、お子さんの安心につながります。数字を使ったり、場所や物の名前を使ったりして指示することが、具体的な指示につながります。

「やるべきことを伝える」

例えば「お店で走らないで。」のように、「〇〇しない」と伝えがちではないでしょうか。これは、一見分かりやすいようですが、具体的に何をすればよいのか伝わりにくいです。「お店の中では、歩くよ。」のように、やるべきことを具体的に伝えると、すぐ「歩いているね。」のようにお子さんを褒めることもできます。「〇〇するよ。」と言い換えるには慣れが必要ですが、これは、とてもおすすめの方法です。

このように、サポートルームでは「うまくいく方法」を具体的に示し、お子さんが「できた！」と思えるような経験を積み重ねさせることで、どこでも使えるように指導していきます。何かお困りのことや、ご相談がありましたら、いつでもサポートルームの教員までお知らせください。これから、どうぞよろしくお願いいたします。